

追悼「歌曲の王」ディートリッヒ・フィッシャー・ディースカウ、
デッサウ・アンハルト劇場の「神々の黄昏」絶賛、
ツヴィッカウでアリラ・ジーガート演出オペラ「セヴィリアの理髪師」

Anila Siegest Produktion in Zwickau, dirigiert von Schirke
von Schirke

DE

アンハルト・フィルハーモニー（団員数78名）のGMDアントニー・ヘルムスの指揮も素晴らしい。この曲の打楽器の編成は然程大きくないが、トラはホルン等3名だけ。歌手も各演はジークフリートとハーゲンだけ。ローゲ歌手として有名なアーノルド・ヘンツェンが今回ジークフリートとしてデビューした。同劇場の団長アンドレー・ビュッカード演出も抽象的で、ジークフリートの動きも常にロボット的であり、時折感情移入を避けた歌唱に共感を感じられなかった。ハーゲンのシエアン・クレムの前はデモニー・シュエでは、ゲンター・ウルフ・ハウルセンと並んで演技も素晴らしい。ブリュンヒルデのイオルタンカ・デリロヴァは演技も歌唱も拔群。ワルトラウテのリタ・カプファハマーの歌唱も大変素晴らしい。スーゼ・トビッシュの衣装もカラフルで抽象的であり、紫色のロングを着たギンギ家の家来たちが光の棒を武器にしていた。デッサウ・アンハルト劇場ツヴィッカウでアリラ・ジーガート演出オペラ「セヴィリアの理髪師」ブルミエ

Anila Siegest Produktion in Zwickau

GMDルッツ・ド・フェール指揮、巨匠ロシーニの素晴らしい劇音楽と共に演出家アリラ・ジーガートの卓越したベルゾーネンレジーにより舞台のディメンションが広がって来た同劇場の看板バリトンの谷口伸は天才的な役者歌手である。フィガロ（谷口伸）は地位や資産もないが創造性のある人間であり、バルトロ（若くて素晴らしいバリトンのヒンリヒ・ホルン）の目論見をちゃんと知っている。フィガロ（谷口伸）がいなかったら伯爵がロシーニと結ばれる事は無かったであろう。伯爵（ラファエル・グイットマー）は自分の地位や資産に関係なくロシーニ（エリアーネ・シェンク）に愛して欲しいと思う一方、幸福を得る為に人を動かすのに金の力を利用する。金はこの作品の重要なテーマであり、舞台上に現金自動支払機がお目見えする。しかし舞台は殆ど空である。アリラ・ジーガートは、垂れ幕、オーケストラ・ピット、舞台をフルに活用している。冒頭で合唱がオーケストラ・ピットから演奏者の様に燕尾服を着て様々な楽器を手にして舞台上に現れる。「舞台・衣装・ディレクター・クラス」オペラ座が市民に創造性を与える公共機関である事を認識させる。限られた予算の中で巨匠の作品から多くの創造的を引き出したアリラ・ジーガート演出から深い感動が得られた。（ツヴィッカウ、5月11日ブルミエ所見）

ブルミエ

11. Mai 2012 Frankfurt

Hinrich Horn
(Bartholo)

Taniguchi Shin
(Figaro)



ツヴィッカウ劇場の「セヴィリアの理髪師」ブルミエ アリラ・ジーガート演出で撮影したコジック・オペラ上演 (©Theaterfotograf Peter Aydukiewicz)